

令和5年度第3回周南市社会教育委員会議

議事録 (要旨)

◆日時 令和6年3月19日(火) 14:00~15:50

◆会場 周南市役所 委員会室2

出席者

○ 社会教育委員 11人(欠席3人)

生村委員、國廣委員、坂本委員、戸倉委員、長畠委員、廣澤委員、福本委員、松下委員、山本(宏)委員、山本(敏)委員、渡部委員

○ 事務局 9人

【教育部】山本部長

【生涯学習課】川上、福田、幡歩、鬼武、井手、弘中

【学び・交流プラザ】内本

【学校教育課】石井

1 日程、議題

- (1) 周南市民憲章の唱和
- (2) 教育部長あいさつ
- (3) 定足数の報告
- (4) 議事録署名委員の指名
福本委員、山本（敏）委員を指名
- (5) 議事（議題）
中学校の部活動の地域移行について
- (6) 事務連絡

2 社会教育委員会議 議事（要旨）

事務局

引き続きまして、議事に入らせていただきます。渡部会長の議事進行により、協議をお願いしたいと思っております。

なお、本日の会議は、15時40分を終了予定時刻としております。円滑な会議進行につきまして、皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の議題は

「中学校の部活動の地域移行について」でございます。

第2回から引き続き、中学校の部活動の地域移行について、市の進捗状況等についてご説明させていただきます、委員の皆様のご意見をいただきたいと思っております。

会長

それでは以降の進行をさせていただきます。では議事に入らせていただきます。「中学校の部活動の地域移行について」ということで、事務局の方からまずご説明をよろしくお願いいたします。

1 中学校の部活動の地域移行について

事務局

それでは、11月の会でも周南市の地域クラブの方針について説明させていただきましたが、その後の取組についてご説明させていただきます。10月末に「周南市地域クラブにかかる方針」の方を作成しまして、後ですが、11月に保護者または児童生徒に向けて、このリーフレットの方を作成し、配付しております。このリーフレットにつきましては、方針をまとめたもののガイド版ということになります。これを配付し、周知の方を図っています。それから同じく11月ですが、市PTA連合会主催で小学生の保護者を対象とした説明会を市内の3会場で実施しております。延べ200名の保護者の方にご参加いただきまして、私の方で方針を説明させていただきました。それから12月になりますが、市の体育協会主催で市民を対象とした中学校部活動地域移行シンポジウムの実施をいたしました。153名の市民の方にご参加いただきまして、方針の方を説明させていただいた後、広島NPO法人広島トップスポーツクラブネットワークの理事長の松田様より今後の地域移行の取組について、ご講演いただいたところであります。それから11月になりますが、市の体育協会主催で、「休日クラブ体験実証事業」を3会場で行いました。

会場は、須々万中学校、鹿野中学校、熊毛中学校で実施しております。

内容としましては、学校の部活動にない競技に触れる機会ということで、ダンス、モルック、バドミントン、ソフトボール、それからプログラミングというのを実施しました。3日間で74名の方にご参加いただいております。対象は、小学生・中学生が対象で実施したのですが、実は小さなお子さんは4歳から保護者の方も混じって活動していただきまして、参加していただいた方からは、概ね満足と評価をいただいております。

「休日クラブ体験実証事業」の報告書につきましては、お手元の方にお配りさせていただいております。体育協会さんの資料となりますが、アンケート等を取りまとめた内容となっております。同じく「休日クラブ体験実証事業」の第2弾ということで、3月に桜田中学校を加えて、市内4会場で実施しております。お手元の方にそのチラシの方が配られていると思います。17日の会場としました桜田中学校では、40名の方が参加をいただいております。プログラミングは中学校にない活動でして、大変人気が高く20名程度の子どもたちがプログラミングの活動に参加しています。幼稚園児はレゴを組み立てるプログラミングをして、その横で小学生高学年は、パソコンを使ってプログラミングをするというような形で、すごくいきいきとした目をして活動しているのが見受けられました。このスポーツ・文化活動体験会ということで、「休日クラブ体験実証事業」につきましては、来年度も引き続き実施をする予定で進んでおります。それから、今、周南市文化スポーツ活動推進協議会というのをこれまで進めておりましたが、そのいくつか挙がっている課題の具体的な解決に向けて専門部会というものを3つ設定して協議の方を進めています。専門部会の協議につきましては、資料の方をお配りさせていただいております。右方に資料1、資料2、資料3、資料4と数字が入っているかと思っております。

専門部会については、3つの部会を設定しております。まずは「周南市地域クラブ」に関する事。これに関わるものが第1部会。ということで、資料1が専門部会での協議内容となります。この専門部会、第1部会が出た内容としましては、団体の登録条件については、競技志向に偏らず、多様な団体等が登録できる条件にする必要があるというものや、募集要項については、文化とスポーツが同じような条件で設定することは困難であるため、それぞれで作成したいというものや、やはり目的は「中学生のやってみよう、多様性、子どもたちの居場所のひとつ」という方針の実現とそれから周南市の文化スポーツ振興につながるというものがある。やはり文化スポーツ振興につながるものにしていきたいというもの。それから今後、指導者の研修についてですが、研修については、中学生時期の子どもの特性について学ぶ機会をぜひ設けたいというもので、やはり競技の専門性よりもやはり中学生と触れるということで、そこを必修の研修としてみてはどうかという意見が出ております。それから学び続ける指導者を地域で育てていく機会ということで、やはり子どもたちが文化スポーツに触れるだけではなくて、指導者もやはり長く学習していく、学んでいくという地域を作っていきたいのだということと第1部会の方は協議を進めています。

それから第2部会につきましては、公共の施設の活用に関する事で協議を進めております。資料の2になります。主な内容としましては、どの施設も基本は定期団体が利用しているため、新規の団体の定期利用が難しい状況にあるということで、施設の予約のルールや手続きが施設によって異なり、煩雑である。それをこの機会に簡略化できないかだろうかということ。それから施設の空き状況が一元管理されており、すぐに空き情報の情報を提供できるシステムの構築が求められるということ。今は、様々な団体が各施設に問い合わせをいただくことになっておりますが、この空き情報が一元管理できれば「ここが空いているよ」というような情報をすぐに提供できるよということと、そういったシステムの構築を求めるとのこと。それから校舎のセキュリティについては、課題がありますよということです。体育館は独立で管理されていますが、音楽室や美術室については独立されていないため、地域クラブ団体が利用するにはハードルがあるということで、校舎については、セキュリティを新たに付け直す必要があるのではないかという課題が挙がっています。

それから周南公立大学の施設もぜひ活用をしていきたいというものです。

それから施設によっては、施設利用に関する調整会議の状況が異なっているというものがありますので、各施設の調整会議そのものも今後見直していく必要であるのではないかとということが挙がっています。この施設の調整会議につきましては、既存の団体がずっと施設利用続けているため、新しく入ってくる団体がなかなか入れない。入っていくのが難しいというような状況にありますので、もう一度、調整会議自体を見直して稼働率が上がるような取組を今後作っていく必要があるというところで話が挙がっています。それから第3部会として「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」に関すること。これは資料3になります。これにつきましては、後ほど別に説明させていただきますので、ここまでで部会の方の説明を終わりたいと思います。

今、第1部会と第2部会で協議を進めておりますが、1月末に第7回文化スポーツ部活動推進協議会でもこの第1部会・第2部会、それから後ほどの第3部会の報告させていただきましたが、やはり一番は、周南市の文化スポーツ振興に継承できる、継承・発展につながるというような部活動改革を進めていきたいということで、単に中学生が地域に出ていくだけではなくて、やはり市民全体の周南市全体の文化スポーツ振興につなげたいというところで、今取組をさせていただいております。このあたりを推進協議会でも共有させていただきまして今後の課題解決に繋げていきたいというところを考えております。以上で説明を終わりたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

第3部会の「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」についてご説明させていただきます。生涯学習課の福田と申します。よろしくお願いいいたします。それでは、まず資料4をみなさん見ていただければと思います。「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」とはどういったものかというところですが、冒頭に載せておりますが、「周南地域クラブ」の活動として、文化芸術活動推進センター及びスポーツ活動推進センターが取り組む事業であるということ、それから中学校区を単位とした、中学生の「やってみたい」に応えるためのクラブということで定義されています。今、このクラブについて公式に決まっていることは、このことのみとなります。これから第3部会で今検討させていただいているところで、このイメージ図を生涯学習課の方で作成しているんですが、これは叩き台ということで、みなさんご理解いただければと思います。どんどん形を変えて良いものにしていきたいと思っておりますので、みなさんの忌憚のないご意見をいただければと思っております。まずはメンバー構成についてです。クラブの主体となりますのが、まず真ん中に載せております「中学生、コミクラの部員」ということとなります。左側に載せておりますのが、今、仮称で「クラブアシスタント」というふうに命名しておりますが、今、これも仮称です。この方が、プログラムの作成の補助をしたり、指導者や地域との調整をしたり、また当日の運営をしていただく、こういったことを担っていただくクラブのお世話役など、こういった役割の方が必要であろうというふうに考えております。それから右側ですが、地域市民センターとしておりますが、このクラブのお手伝いをしていただける地域のサポーターといった方々、この三者でこのクラブを進めていきたいというふうに考えております。

次に、活動についてです。「拠点」と「場所」ということで分けておりますが、「拠点」は、プログラムの作成をしたり、話したり、集まってちょっとした活動ができる場所、今、部室があるかと思うんですが、そのようなイメージで捉えて作っております。学校の、例えばコミュニティルームとか余裕教室などを今、想定してここに載せております。それから場所につきましては、実際に活動を行う場所ということで、こちら基本的には学校の余裕教室とか、体育館、グラウンドといったものを想定しています。ただし、プログラムによっては、市民センターやその他の公共施設を使用して実施するということも考えられると思っております。ただし、費用負担の問題がありますので、基本的には公共施設に限定して実施していけば

いいのかなと思っております。

次に、活動日についてですが、活動日は、原則として平日及び長期の休業期間中。これをクラブ員で任意で設定していくというふうに考えています。活動の時間帯ですが、時間帯は現在の部活動をやってるような時間帯、放課後の時間帯の午後4時から6時といった時間帯が目安となるのかなと考えております。それから次に、運営についてです。運営につきましては、部員とクラブアシスタント。この二者で、まずプログラムの作成に取り組みます。二者でやりたいことが粗方決まりましたら、地域サポーターの方に加わっていただいて、三者で協議をして、実現に向けて進んでいくやり方でどうかと考えております。この地域との関係ですが、生徒側の方から、こういうのを協力してくださいという依頼だけにとどまらず、地域の方からも、こういったボランティア活動をしませんかとか、お祭りの企画とかやってみませんかといったようなご提案などいただけるような双方向の関係性が築いていければいいかなと思っています。この話し合いに並行いたしまして、クラブアシスタントの方は、指導者や活動場所の確保の調整を行っていきます。ただし、このアシスタントの業務ですが、すべて一人で行う必要はないのではないかなと思っております。このアシスタントという役をグループで担っていただくことも考えられると思いますし、この業務の中の調整部分といったような事務的な作業は、センターに請け負ってもらうという選択肢もあるのかなと思っております。こうしてプログラムが完成しましたら、参加者を募集して、実施という流れになるかなと思っております。以上が、生涯学習課の方から提案させていただいた案になります。この案に対しまして第3部会の方でご意見いただいたものが資料3になります。

目的については、身近で活動できる、気軽に参加できる、それから低廉な活動費で実施できる。地域とつながる活動といったものを用意したらどうか。子どもたちを対象としたスポーツ振興、文化振興、社会教育、地域づくり、そういった視点が重要である。体制については、クラブアシスタントという立場の人は必要であろうというようなご意見をいただいております。それから指導者が必要のないクラブとかも出てくると思いますので、そういったクラブ活動では、活動を見守る人が必ず必要であろうというご意見をいただきました。

それから一つのコミュニティ・クラブに必ず一人のクラブアシスタントをつける必要もないのかなと。例えば一人の方がいろんなクラブを掛け持ちということも、場合によってはできるのかなというご意見もいただきました。

それから周南公立大の学生さんにも地域のサポーターの一員として活動させたい。委員の中に周南公立大の方がいらっしゃいますので、そういった申し出もいただいております。

それに対してアシスタントをもし公立大学の方で、担っていただくことっていうのは難しいだろうかというようなご意見もありました。それからクラブアシスタントについては今までにない業務を担っていただくということになりますので、こういった業務ができるような人材を養成していくという視点を持つ必要があるだろうというご意見もありました。第3部会については以上でございます。よろしく申し上げます。

会長

前回の社会教育委員会議以降、地域クラブへの移行に係る様々な取組の進捗状況とそれからご案内がありました文化スポーツ活動推進協議会の専門部会で議論された内容で、いろいろと出てきた課題等々がご説明ございました。非常に複雑な構成になっておりますので、大きな枠組みの地域クラブ全体についての方からご質問、ご意見を賜わって、その後その活動の中の一環としての、「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」についてご意見いただくというような形で進めて行きたいと思っております。ずっとご説明があつて、中学校部活動が周南市の地域クラブへ円滑に移行していくためにそれを今ご尽力いただいているところですが、その活動等についてですね、委員のみなさまから忌憚のないご意見、ご質問とかいただきたければいいと思っておりますがいかがでしょうか。

委員

大変な事業だと思うんですが、今考えておられる中では一応中学校区ということで、特に中学生には自分の中学校区に近い場所で活動ができるというふうに考えてよろしいのでしょうか、

事務局

「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」については近い場所ということになりますが、地域クラブ自体は市内全域を対象としていますので、自分が求める競技が他地域だということもあります。例えばヨットは光市にあつたりしますので、そういう他市にというところもあると思いますし、その点は地域限定という訳ではないというような状況です。

委員

地域クラブと「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」の関係について、どのような立場、どういうふうな形になっているのでしょうか。

事務局

リーフレットを見ていただきまして、開いて右下、「周南市地域クラブ」という図を載せております。この周南市地域クラブにつきましては、緑色のセンターへの登録団体等の活動ということと、それからセンターの活動という二つの柱がありますが、センターへの登録団体等の活動、これが主に周南地域クラブで子どもたちが参加する団体ということになります。既存にあるスポーツ少年団であつたりとか競技団体であつたりとか総合型地域スポーツクラブなどの様々な団体がこれからの部活動に代わる実施主体というような形になります。

それから「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」につきましては、それらの活動を補完するような形のクラブということになります。あくまでもセンターへの登録団体等の活動、このいろんな団体があつて、競技志向であつたりとか、レクリエーション志向であつたりとかというものを様々な目的で進めていくのに対して、「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」はあくまでも「ゆるクラブ」というような形で、競技志向ではないということ、地域に根差したもの。あくまで補完的な位置づけということでご理解いただけたらと思います。

会長

なかなか分かりにくいですが、「周南市地域クラブ」という大きな枠組みの中に、いろいろな団体が加盟していくのは分かるんですけど、その総まとめみたいなものが地域クラブですよ。

事務局

はい、センターに登録されている団体を大きくまとめて周南市地域クラブというような形になります。

会長

「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」というのは、その中でどういう位置づけなのかというご質問だったと思うんですけど、それはあくまでも中学校区単位で、いわゆる今までの中学校の部活動みたいなものの補完みたいな形でいろいろ活動していく仕組みと考えてよろしいですか。

事務局

そうですね。学校とは少し切り離された形にはなりますが、より地域と密着していくというような形になります。今までの実施主体となる部活動の代わりとなるクラブについては、このセンターへの登録団体、これが実施主体となって、それから二つのセンター、体育と文化にあるセンターがその様々な団体の運営をサポートしていくというのが大きな柱となります。またそれを補完するような形で、「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」は二つのセンター自体が運営していくというような学校校区単位での活動ということになります。

会長

地域クラブというのはセンターが二つあって、それ全体で地域クラブですよ。そこまでは理解できるんですけど、そこに登録することによって、実施主体となるのが地域クラブである。それぞれ部活動がしたい子どもたちというのは、いったいどのような立ち位置なのかちょっと見えない感じがします。

事務局

基本的にはこのセンターへの登録団体等に子どもたちは参加していくというような形になります。

会長

センターの登録団体にはいろいろな団体があり、NPO とか様々なものが入るわけですよ。今までの部活動のみならず、地域の社会、文化スポーツ振興にかかるすべてが入るというイメージですよ。そのことと、話題になっている部活動の移行というのは少し切り離して考えていて、あくまで中学生達がどういう風にクラブ活動に参画していくかという話なので、ちょっと切り分けないと分かりづらいのかなと聞いていて思いました。

委員

今の件なんですけども、話を聞いていると二つのクラブができるようなイメージを思ってしまったって、部活動の地域移行と「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」というのがなんとなく頭の中で繋がらないので、その説明というか、何か違いをもう少し明確に説明してもらわないと、頭の中がこんがらがってしまうというのがひとつと、もう一点は活動例でAさんはサッカーだけやってる。Bさんはいろんなものをやってますよね。これが「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」なのかなというふうに勘違いしてしまいそうなイメージがあって、なんか部活動の移行って、あるスポーツを決めてやるっていうのが頭にもうあるんですよ。この「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」っていうのが、いろんなことが地域の中でできるようなイメージと理解してしまったので、なんかその辺りを少し分かりやすく市民の方に説明されたらいいなと個人的に思いました。

事務局

まず部活動が地域に水平移行するような形では全くありませんので、今、様々な地域にあるスポーツ少年団とか様々な団体がありますが、それに子どもたちが参加するというような形です。現状でも既に社会体育として参加している子どもたちがたくさんいますが、それがどんどん広がっていくというような形です。活動例のAさん、Bさんというのを示していますが、昨年度の児童を対象にしたアンケートで、小学生の子どもたちは、もう既に複数の活動に参加していると結果があります。ですので、今まで学校の部活動については、どれか一つを選ばないといけなかったというのが学校の部活動ですが、地域クラブについては複数選択することが可能です。現状、サッカーをやって習い事として習字をしたりとか、子どもたちは複

数を選択していますので、当然複数のスポーツや文化を選択することも可能ですし、一つを今までの学校の部活動と同じように選択してやっていくこともできますよというところのページということになります。これが一つ目です。もう一つの今のお話の続きでいくと、センターへの登録団体、これが主な形になります。今ある既存の団体さんに子どもたちが入っていくのがメインの形となります。先日、市民センター等で講座をされているフラダンスの団体から新たに中学生を受け入れたい、という申し出もいただいております。そういう新たな団体ができてそこに中学生が入っていく形が主になります。「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」については移動費のことであるとか、活動費のこともあります。それからボランティアについては、より地域に近い形で活動していくということもありますので、先程話したようにメインとは別に補完的な立場で、地域と子どもたちが少し繋がっていく機会を設けるというために位置付けているものですので、全く同率のものというよりは、メインがセンターへの登録団体の活動で、そのサブ的な位置づけとして「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」を位置付けているというふうな形になります。

会長

段々イメージがつかめてきたと思うんですけど、大きな枠組みでセンターに登録団体の活動があって、それ以外にもセンターの活動として「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」の活動もあれば、それ以外にもまだ何かあるんですよ。その大きいのが「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」で特出しして、話されたと思うんですが、丁寧に説明していただければ分かるんですが、やはり関係性とか、イメージがつかみにくいと思います。それはやっぱり今まで部活動っていうのを子どもたちがやっているというバイアスがかかっているの、なかなか理解が難しいというのはここで共有できたと思うので、より一層分かりやすいご説明をいただければと思います。

今の問題でもよろしいですし、この際ご意見をいただいて、より良い移行にしていきたいと思います。

委員

今の話で、「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」の方は、例えばボランティア団体だった場合、地域クラブにも登録はするのでしょうか。

事務局

そこは今検討中なんですけど、例えば周南市全域に募集をかけたいというのであれば周南市地域クラブとして登録していただくと周南市全域に募集がかかります。学校区だけということであれば、「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」に登録していただければ、その中学校区だけの子どもたちに募集がかかるというようなイメージになります。あくまでもセンターへの登録団体に入ってくださいと、市内全域の生徒に情報が発信されます。付け加えて言うと、その他のところに黄色で入れてますが、その情報は一切子どもたちに入らないので、各団体の方で情報を子どもたちに発信していただくという形になります。センターに登録していただくとすべての情報が子どもたちに一元的に届くというシステムになります。

委員

そういう中でクラブアシスタントの方の役割がよく分からないんですが、重要な役割をされるということで、組織としてはセンターの職員のイメージですか。

事務局

「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」の議論については、一回、地域クラブ全体の話をしてからにしようと思っていたんですけども、今、皆さんに全体の説明をする中で、「地域クラブとは何だ」というところで、基本的にはスポ少といったところに、子どもたちの活動の主体が移るところはご理解いただけていると思います。そうした中で、先程からの繰り返しになりますが、そういったところには行かない、競技性を求めて一生懸命練習したいではなくて、ただちょっと楽しく軽くやりたい。もしくはそれだけじゃなくてちょっとやりたい。いわゆるスポ少などを選ばない、選べない場合もあるかもしれませんが、選ばない子どもたちに対して、何かしら活動の場を設けようと思って補完するものが「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」であります。最初に、全体の地域クラブへの部活動地域移行についての移動の問題でありますとか、大きな課題点については、前段でお話いただければと思っていたんですけども、「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」で一番イメージしやすいのは、中学校の中で放課後子供教室をやるというのが認識が近いかと思います。地元の力やアシスタントの力をお借りしながら、どういったメニューをアレンジしながら、セットアップをしていく。決して部活動と同じように「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」が月曜日から土曜日までフルに毎日毎日何かするっていうイメージではありません。毎日活動するというようなものであれば、地域クラブのいわゆる今のスポ少であったり、登録団体であるところに参加していく。それを毎日同じものをやるのか、複数2つ、3つを掛け持ちしながらやるのかっていうのが全体的な地域クラブの取組というふうになってきます。「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」は、ちょっといわゆる一般的な地域クラブの活動とはだいぶ様相が違うということをまずご理解いただいて、いわゆるスポ少などに行かない子どもたちをどうフォローアップしようかという取組だと思っていたいただければと思います。

委員

今の周南市地域クラブと「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」のそれぞれに入る生徒の割合みたいなところの想定なんかがあるのかなと。難しいことは言いたくないだろうと思うんですけど、今、中学生は約3,000人いますよね。小学生が約6,000人。その3,000人のうちの例えば1,000人が地域クラブに入るとして、2,000人を対象として「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」があるのかなと思ったりするんですけど、その辺が今だいたいどれくらいの想定で行こうとされていますか。

事務局

想定は難しい状況ですので、特にできてませんし、当然センターへの登録団体に入り、「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」にも入るといっても考えられますので、そこは数の想定としてはちょっと難しいかなと思っています。それで来年度5月を目途にアンケートを取って、その辺りのニーズ等の確認を調査したいと思っています。

委員

では地域クラブで抱えられる生徒の数の予想というか。今3,000人で、おそらく9割は部活をやっていますよね。2,700人中の何人分くらいを移行できるように考えているのか。これは難しいですよ。

事務局

予想は大変難しいんですが、今団体が、体育協会・文化振興財団の方で、各団体に中学生の受け入れについてヒアリングをさせていただいております。スポーツ少年団につきましては、多くの団体で中学生の受け入れを前向きに検討していただいているというところなんです。それから文化につきましてはかなり高齢化が

進んでおりますので、少し時間がかかるかなと思っております。それからこういうふうに、今少しずつ情報の周知が図られているような状況で、新たな団体を立ち上げたいという方も多数聞いておりますし、それから実際に立ち上げられた団体さんと、それから新たに立ち上げを検討されている団体さんもおられますので、事務局としては、どちらかという団体さんにとにかくより多くいろんな種類、多様な種類の団体さんを用意することで、子どもたちが入れるようにしていくことが重要かと思っておりますので、その辺りの周知を図っていきたいと思います。

事務局

そうした受け皿をなるべく増やすために既存のクラブ団体、ないしはまたは新しく作ろうというところがどういう基準なら地域クラブというのにエントリーすることになるんだろうかというところを、先程の第1部会が基準をどういうふうに定めようかというところで議論をしているというところになります。それと合わせて、特に新しい団体が心配される場所ですけれども、「じゃあどこで活動できるんだ。」「どういう形で場所が借りれるんだ。」っていうところのハードルが何で、どうクリアしていこうかということの議論を第2部会でしているという状態です。

会長

ちよっともう一つだけ私の方から質問させていただきたいのですが、今日たまたま午前中に、周南市と徳山高専と周南公立大学と三者連携会議があって、徳山高専の方から、地域の部活動移行という提案があったんですよ。これは、小学校・中学校だけじゃなくて、これからの高専とか、場合によっては大学も部活動を維持できなくなるということもあるので、そういった時に地域全体でどういうスポーツや文化の振興をしていくことの大きな枠組みの中での定義だったんですが、例えば高専さんだったら、自分たちはプログラミングみたいなことの部活動を受け入れることができるよという。それが例えば徳山高等専門学校がこの地域クラブに登録するということな訳です。そうすると子どもたちがプログラミングクラブみたいな活動を受け入れてくれる高専さんの所に行って活動ができる、そういう仕組みでいいんですかね。

事務局

はい、まさにそういう形になるかと思えます。

会長

で一方はですね。周南公立大学の方は、例えば「クラブアシスタントみたいなものを出していることを想定しているんですか?」と私が伺ったら、「そうだ」と。要するに地域の恐らく中学校区でいろんなスポーツなんかをやっている人たちの活動のコーディネーターとか、プログラムみたいなものをやるお手伝いを、我が周南公立大生にお願いしたいということで。これは恐らく「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」のレベルだと思うんですけども。それは別にむしろ構わないんですけど、ボランティアを現在600人くらいの学生に毎年させてる訳ですが、確かにそういうのってこう全部ボランティアに依存するような形でいいのかっていう疑問が一方ではあったんですよ。もちろんお手伝いはしますし、先程もありましたけれども、ただなんかボランティアで子どもたちを手助けするのではなくて、周南公立大生も自分たちが学びの一環としてそれに参画できるような仕掛けがないと意味がないので、それこそ地域文化・スポーツ振興に全市で盛り上げていくということにならないと思うので、そういうふうなイメージだったんですが、それもそれでよろしいでしょうか。

事務局

はい、そのようなイメージで考えています。大学生もやはりただ単に、子どもたち、中学生と一緒に活動するだけではなく、その活動を通してやっぱり大人もそうですが、学びを深めていく機会、それからやはり地域とつながっていききたい、つながっていただきたいという思いでおりますので、これが中学生の部活動の地域移行を契機に、やはり周南市全域のスポーツ文化振興ということを考えておりますので、あくまでもそのひとつのきっかけということで、新たな物を再構築していきたいなと思います。

委員

今、地域でいろいろと活動されているスポーツ振興会とか文化振興団体がたくさんあります。それと其中でも一挙に入ってきたりしたらかなりの差も出てくるのではないかなと思うんです。そういった時には、指導者もいろいろあるんでしょうけれども、そういうスポーツ振興会とか地域の文化団体とかとの話とかというのはいろいろされているんでしょうか。

事務局

はい。今、体育協会さん、それと文化振興財団さんを中心に進めているところです。当然、先程の加入率につきましても、団体によって差が出てくるかなというところもあります。例えば、あるスポーツ競技については、チームは立ち上がったんですが、まだ入られている方はかなり少ないというところもありますし、文化につきましては、例えばお一人でも中学生を受け入れますよという方もおられますので、その辺りは団体さんの魅力とか、活動の費用であるとか、場所とかいろんなものが条件に入ってきますので、その条件によっては、子どもたちの入る差であるとか、活動については差が出てくるかなと思っております。

委員

やっぱり文化団体になると、私の住んでいるところはたくさん数がないんですけど、ないから問題というものもあるんですけど、その辺のところはどういうふうにかえたらいいのかなあと。たくさん入ってくればいいんですけど、入ってくれたら地域の文化団体の活性化につながっていいなあと思うんですよね。ただ、それを例えば市民センターの講座とかが受け入れをすとかということも当然あると思うんですけど。それからもちろんスポーツ振興会のスポーツクラブが受け入れをして一緒にやるということで普通考えたらいいということですよ。ただそうすると大人と子どもが一緒になることもありますよね。競技を目指す子どもたちであれば、これは当然、例えば市内全体の中から選んでそこに入るとは思うんですけど、そうでなくて、何かやりたいとなった時には、その地域のどこかに入っていくなり、塾などもありますよね。塾を今掛け持ちしている子もたくさんいますけど、それも一つの対象になるということで考えたらいいのでしょうか。

事務局

今の文化につきましては、地域移行については、スポーツがすごく注目されやすいですが、文化については、文化協会さんの方でも説明させていただきましたが、先程お話しましたように大変高齢化しております、以前お話しましたが先日文化協会に説明させていただいた時には、「もっと10年早くこれをやってほしかった。次の10年はもう待てませんよ。」と。指導者の方も、そこにおられた文化協会の方も「もう10年経ったらいません。もうこのタイミングが最後ですよ。」と言われたのを覚えております。中学生は

部活動が始まったら、どんどん辞めていく。小学生で保護者の方と一緒にやられている子どもたちが、中学生の部活動が始まると習い事を途端に辞めてしまというのもある、これを契機に習い事を続けてもらいたいんだと。文化の方もこれを機会に、もっと発展させていきたいんだということをしごく言われていましたので、数はそんなに多くないかもしれませんが、やはり子どもたちが少しでもそこに入っていきることによって文化継承になればなというところの大きな契機になるのではないかなと思っています。

会長

「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」も地域クラブも含めて、どちらでもいいので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

委員

今、地域クラブと「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」もそうなんですけど、参加して下さる団体の方を今、一生懸命探していらっしゃると思うんですけど、どのくらいの団体が今のところというか、その見方が見やすいのは、やっぱり一覧表みたいになって、中学生がネットでもいいんですけど、一覧表を見て、このクラブは初心者向けですよとか、何人募集しますよとか、例えば卓球だったら、卓球台の数がないとかいう問題もありますけど、だから募集人数は何人ですよ、とか見やすい形の一覧表みたいにしていただくと生徒が選ぶ時に選びやすいんじゃないかなと。そういうふうな団体をどんどん増やしていただくのと、参加していない団体。こんな団体がありますよ。みたいなものを枠外にちょっと載せていただくと、お母さん方は一番はやっぱりどんな団体があるのかも分からない。選ぶのも難しいんじゃないかというのはちょっと保護者の方の意見として今出てきていますので、まあ変わるということで、すごい不安を抱いているのと、あと一つお母さん方が心配なのが、今までは学校の中で、ちゃんと先生が責任を持ってやってくださっていたのが、地域に移行されるということになると、思春期の子どもたちですから、精神的な面でトラブルがあったりした時に、先生だったら的確に、性格とかも分かっていますから、対処して下さるけど、そういう指導されている方が子どもたちの異変といいますか、そういう悩みに気がついてくれないんじゃないかと。それが引きずって学校生活に影響が出たら困るというふうなお話をされているお母さんもおりましたので、その辺もちょっと、せつかくまあ中学生に向けての研修をしますよということでしたが、果たして参加される団体がそこまで思ってくれるか、ちゃんとしてくれるかはちょっと心配だなあと思っておりますが、いかがでしょうか。

事務局

まずは、団体の数については、まだヒアリング中ですので具体的な数は出ておりませんが、イメージとしては、メニュー表のようなものがあって、団体名とそれから団体の目的であるとか、活動とか活動費とかあらゆる情報が出ているようなメニュー表を準備して、そこから選んでいただくというようなことをイメージしております。それがメニュー表とお話ししますが、いわゆるタブレット上で見ることができるというところから、子どもたちがニーズに合ったものを選んでいくのをイメージしています。それから二つめの指導者につきましては、保護者説明会でもその辺りのご意見を聞いております。専門部会で先程お話したように出てきた意見としては、指導者の専門性を高めるよりも子どもたちとどう接していくか。そこを必修の研修にした方がいいんじゃないかというところが出ていますので、そんな形で今検討を進めているところです。これは地域の話になりますが、そういう風な団体もいろんな色が今から出てくると思いますが、やはりこれからは保護者、子どもたちが選んでいくような時代になっていきますので、当然そのような指導者になかなか指導が難しいというようなチームはどんどんやはり縮小していくというところで、きちんと指導ができる方のチームという団体が残っていくというところ。そのようなやはり保護者の方の目

は厳しいですので、そういったことが他の地域では実際に起こっている。逆に言うと、魅力ある団体はどんどん人が集まっていくというところもあるかと思います。その辺りでは二つのセンターと一緒に団体のサポートと、それから活動の状況については見ていけたらというところで進めております。

委員

皆さんご存じでお分かりだと思んですが、私がちょっとよく分からないのが、今までの部活動に対しての子どもの評価というのがどういうもんだったかというのが私は分かりません。これからそれぞれ地域移行や「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」の方に移って行った時の、子どもの評価というのは学校とリンクしていくんでしょうかというところの問いです。

事務局

保護者説明会でも出たところなんですが、まずは保護者の方が心配されてたのは、進学にどれくらい関わるのか、ということが出ておりました。

ただ例えば全国大会とかですね、大きな大会で上位に入賞するというのであれば、高校進学にも大きく影響してきますが、普段の一般的な活動については、今は受賞の記録よりもどのように活動してきたのかというところの方が問われてきています。ですので活動の結果ではなくて過程の方がどうだったのかということが、今、それがきちんと自分の言葉でしゃべれるとか、きちんと記録で残せるということが問われていますので、これについては新しい形についても個々の活動が学校の先生方と共有できるようなシステムを今検討しております。ですので各団体さんには、ある程度の記録であるとかこういうことが今ありましたよというところを学校の先生方とリンクしていく。また子どもたちもこういう大会でこういう結果が出ましたよということを学校に報告できるようなそういうシステムを今検討しているところです。

委員

先程の他の委員さんのご意見も踏まえてなんですが、最近なんかちょっと閃いてですね。これを理解してきたなというふうな、前回の会議の時よりも理解してきたなというふうに思っているの、みなさんの理解の少し助けになればなあと思っているところです。基本的に前回も確か事務局の方が言われたと思うんですが、部活動はもうなくなったというので考える方がとても理解ができて、この冊子も表紙こそ円滑な移行ってのが書いてあるんですが、中の文章見ても、その後「移行」っていうのは一行も出てないんです。ということは今の部活動が無くなって、学校で面倒見切れなくなったので、地域の方に移して地域の方でとかっていう感じじゃなくて、根本、もう部活動っていう制度は恐らく、みなさんも我々も経てきたものの根本が変わる。それで「改革」って書いてあるんだろうと思うんですが、先程のご意見の中で、実際の中学生はどのように部活を捉えているか人によって違うと思うんですが、ある方はずっとやってきた専門的な競技をそのまま伸ばして、その道で上を狙いたいという方は、例えば野球で例えると、クラブチームに入ってそもそも部活に入っていない。学校の部活には入っていない。もしくは小学校時代から野球に慣れ親しんだので、一緒に仲間たちと一緒にやりたいというニーズがある人。そういう方は、学校の部活動の野球なら野球に入る。小学校の時に、仮に10人くらいいたら、そのうちの5人くらいが学校の部活動にそのまま入る。2人くらいはリトルリーグとか専門性のある社会体育部という扱いでクラブチームに入る。残りの3人はというと、ちょっと勉強の方にも力を入れたいし、他の習い事があったり、そこまで野球が得意な訳でもずっと続けたい訳でもないけど他のこともやってみたいと。とは言え、我々が学生時代の時からそうですけど、学校教育の評価と部活動の活動の評価がセットになっているという幻想、要は端的に言うと内申に影響するのではないかという親の考え、子どもの考えもあって、とりあえずなん

か部活に入っておきなさい。ということでそれが例えば比較的練習が少なく、拘束が少ない部活だったり、必ずしもその部活の競技であるとか専門性に興味があってという訳ではなく、何かしら籍を置いておきたい、置いておかないと評価に影響するってところ。その辺がある方もいるんじゃないのかな。つまりそれが今回の地域移行になったら、やらなくていいという選択肢を強制的に何かしらの、まあ言い方は悪いけど、好きでもない部活動を3年間それなりに在籍しとかないといけない。で、また先程別の方の意見でもあった人間関係だとか、これが嫌でも部活を辞めると内申に響くのではないかと。本当はそうでなかったとしても、大半の親はそうであるかのように捉えていると思います。だから頑張って続けなさいという感じですし、なかなか部活動を辞める率っていうのも少ないんだろうと思います。

これが地域移行になったら、好きなこと、今度こっちを習ってみて、やっぱ辞めたとか、今度はこっちの美術を習ってみたり、そういうような形でもいい。若しくは帰宅部というだけで後ろ指を指されないという選択肢もあるということで、その辺も実際に運用されると、今例えば3,000人中、9割の2,700人が何かしらの部活動に入っているけれども、地域移行になった時にどれだけというと、2,700人のπ(パイ)を用意する必要もないのかもしれないですし、皆さんが選ぶ中で、人気がある良い指導者であるとか、特色があれば集まるし、特色無ければ開店休業みたいなものも当然出てくるのだろう。まあこれも子どもさんたちが選ぶという自由が出てきたと考えれば、あながち悪くもないのかな。ただ一個だけ本当に内申点であるとか中学生、特に高校の進学というのが、もう本当に一生を左右するんじゃないかというぐらいの親も子どもたちも考えているというところで、ここが今までは学業と部活動というのも確かに通知表の下の方に、「〇〇県大会」とかいうのがありました。というところで、でもお勉強で入る一般入試って最終的には内申のふるいにかかけられるとかっていうのもあるかもしれませんが、直接スポーツで見ないと思います。もう一つは推薦入試のところかというと、そのスポーツを一生懸命やってきたという実績が評価されるということ。ですから学校の評定平均とスポーツの実績、それを今は推薦入試っていうのは学校長の推薦という形なんですけど、なんか最近見たら令和8年度から特色選抜導入で、学校長の推薦じゃなくて、自分がこの学校にエントリーしたいという自由推薦みたいな形になるっていうのが県のホームページにも出ていて、仮にそうだったとしたら、もう学校が学業と部活動的な活動を学校が管理して、その中でふるいにかけて学校として推薦をするっていうこの制度自体も変わってくるのかなと。だとしたらもう完全に、好きな習い事という感覚、もしくは競技で専門性に特化したいという方は専門性の高いクラブチームにより参加しやすくなるのかなというふうに僕はちょっと解釈しているので、必ずしも今までの管理しやすい、僕らも思春期の子たちをだいぶ疲れさせて家に帰らせてくれないと持て余されても困るかなというのもありましたけど、本質が変わると僕は解釈しているんですが、違ってたらすみません。

事務局

大変理解していただいてありがとうございます。まさにその通りで、学校の部活動については当然今もそうなんですけど、学校の部活動以外、例えば社会体育に参加している子どもたちについても、実証記録等は調査書と言いますが、ここに挙げる書類にはその社会体育についても入れていますし、どういうふうな活動をしているか子どもたちにヒアリングをして、その活動状況については文章に表記していますので、それはこれからも変わらないというところではあります。先程も話しましたように、結果よりもどのように活動してきたかということの方が重要で、子どもたちがいろんな活動を選択すると思いますが、それぞれの活動でどのように活動してきたか、何をそこで学んだか、どういう目的をもってやったか、それを自分の言葉でしゃべれる。その方が重要であって、部活動は先程お話されたように、なかなかそれが目的が違ってなかなか難しいというお子さんもおられますが、やはりこれからはそれぞれ自分で選択して、目的をもってしっかり活動していく。そこを自分でアピールできることの方がより重要になってくるんじゃないかな

いかなと思っています。

委員

地域クラブに関してはある程度理解できたかなと。先程の委員さんの説明もしっかりと理解できました。で、やっぱりどうしても今からたぶん地域で皆さんもそうだと思うんですけど、一番関わってくるイメージの「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」のところが、やっぱりどうしてもまだよく分からない。今からちょっと形も変わってくるんだろうなという気はするんですけども、先程放課後子供教室が一番近いイメージっていうので、あ〜と思ったんですけど資料4の運営についてっていうところを見ると、なんとなくちょっとイメージが違って、生徒発信という「これやりたい」っていうのが。ちょっと思ったのが、コミュニティスクールのところと何か共通するんじゃないかなということで、今まではクラブアシスタントっていうのがたぶん先生だったんだと思うんですよ。コミスクで。生徒たちが「こういうことやりたい」って言った時に、先生方が調整して指導者とか地域の指導者だったり、学校という場所だったりして、地域のサポーターを巻き込んで一緒にやるというイメージだったので。例えばこういうのが地域クラブの登録のとはちょっと別にコミクラ部みたいなものがあるって、それが熊毛でいうと、三丘、勝間などに分かれていて、三丘コミクラ部だとしたら、三丘で例えば「夏祭りを再開したい」みたいなことを子どもたちが言うと、それに関してクラブアシスタントの方とかがそれを実現するためにはこういう方が必要ではということで調整されて地域サポーターと一緒にそれを実現するっていうイメージなのかなってちょっと思ったんですけど、どうなんですかね。

会長

はい。ありがとうございます。話が「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」になりましたが、ちょっと説明をお願いします。

事務局

まさしく本当にそういうイメージで今作っております、プログラムの作り方っていうのもこれも各クラブでいろいろになってくるのだろう、それも一律でこうしなさいよということじゃなくて、各クラブで決めていければいいんじゃないかなと思っているんですけども、月曜日はバスケットをやりたいね、水曜日はお茶やりましょうか、金曜日は〇〇やりましょうかっていう中で、地域が例えば「この日にボランティアどうですか」って言われたら単発で入れていって、「じゃぜひこれやりたいね。みんなでやりましょう」っていうふうに決めって行って実施するみたいな、そういうプログラムの作り方もあるのかなと考えています。

委員

ありがとうございます。そうなるやっぱりクラブアシスタントさんっていうのがすごく重要な役割をされるし、大きいと思うんですよ。なのでそこを地域の方もキーマンもいるとは思いますが、そうじゃない方に調整していただく方が負担が少なくなるので、まだ、そこがどこの組織になるのかというのはまだみたいですけれども、そこがやっぱり大きいところになって、いい運営になっていく鍵なのかなと思うのでよろしく願いいたします。

事務局

このイメージ図を作っておりますけれども、たたき台の状態です。第3部会の皆さんに「これどうですか」と投げかけているような状態です。その中で共通して認識しているだろうとクラブアシスタントのような人

はいりますよねっていうのは共通理解しているところなので、この役割を担ってくれる方がどういった人がいいのか、どういった方ならできるよねということを今から詰めて、皆さんから「こういった方がいる」ということで、必ずこういう方って決める訳ではなくて、クラブごとに例えば周公大の学生さんがこのクラブは持ってくれるし、また高専さんがいらっしゃる地域の方がいらっしゃるとか、NPO 法人の方が持てるとか、のようないろんなパターンがあるんだろうなと思っていますので、その辺をみんなで詰めて良いものを築いていきたいなというふうに思っております。

委員

ありがとうございます。できたらこの部分って、ある程度有償の方がいいのかなとは思っているんで、かなりのボリュームにはなってくると思うので、その辺も含めよろしく願いいたします。

事務局

その辺も含めて検討したいと思っております。よろしく申し上げます。

委員

ちょっと前の方に返ってしまいますが、地域クラブで、今までだったら柔道とかバドミントンなり、テニスなり県大会とかそういうのがありました。他の市は周南市のような考えで進んでいるのか。他の市の進捗状況も知りたいんですけど。交流するのに試合とかあると子どもたちのやる気につながっていくんじゃないかなと思いますので。

事務局

今、本市と同じように平日も一体的に改革を進めているところにつきましては、光市、それから山口市、宇部市、長門市、防府市はちょっと形も違いますが同じような移行を進めております。ただ防府市がちょっと違うとお話したのは、同じ平日も一体的にする移行ではあるんですが、システムがやはり市によって違いますので、その辺りが違うというところです。それから大会の参加については、中体連の大会につきましては、もう多くの競技でクラブチームの参加を認めておりますので、今年度も新チームの大会が9月にありましたが、周南市でも9チームが出ておりますので、そういうふうに中体連の大会につきましてもどんどん新しいクラブチームが出てくるかなと思います。また、競技によっては、中体連の競技ではなくて、その競技団体の大会が充実している競技もあります。ですのでそういう団体につきましては、中体連よりもそちら側で大会に参加していきたいなというチームもありますので、地域クラブに入ったから大会参加は難しいということはほぼない状態にどんどん進んでいくという形になります。

委員

ありがとうございました。

会長

はい。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

学校が実施主体として今までやっていた部活動が変わってくると、様々なやり方が変わってくるので、我々は古い時代の者なので大会はどうなるんだろうかと思っちゃいますが、それも形が変わっていろんな形で実施されて、それこそアスリートの養成ができるし、いいところに向かって行ってもらわないと困るなあと思いますし、逆に多様な選択肢が増えるということで、子どもたちにとってはひょっとしたら可能性が広がるかもしれない。というような前向きに捉えたいんですが、他にご質問、ご意見があれば。

委員

地域移行に対して、地域が急に変わるので戸惑いもありましたけど、よく考えたらこれは地域にとってすごいおいしい話ではないかというお話が出て、うちの地域では、地域型スポーツクラブに取り組んでいます。体育振興会でバレーとかいろいろあるんですけど、今まで小学校でスポ少で頑張ってた子が中学校になったら部活に入ります。中学校卒業した途端にプチンと地域と切れてしまって、中学校が今ボランティア活動をしているんですけど、それも一緒に全部なくなってしまう。というのがもう一番の悩みだったんですが、もしこれ地域に移行すると、中学生の時に地域でスポーツをしていた子が、高校は部活があるので、そっちに行っちゃうかもしれないんですけど、残る子がいるだろう。そしたらずっと地域に根差した活動をしてくれたら、うまくすればずっとコミュニティの活動をされるということで、後継者の育成ではないんですけど、地域のいろんな活動の、今度は中心となってやってくれる子がその中から残るんじゃないかなと、すごく地域は期待しております。今のスポーツクラブには結構中学生が、3年生で卒業した子が、今やることなく結構な人数がスポーツクラブに来ております。一応体験ということで来ておまして、好きなことをしているんですけども、やっぱり楽しそうに活動しておりますので、指導される方は変な強制をせずに、その日は半分は卓球、半分はバレーをやっていて、卓球をやっていたけど飽きたからバレーに行きます。というのを自由にやらせているんですけど、とっても楽しそうに活動していて、「そんなんでいいんだろうか。」というふうに指導者の方は言われていましたが、「それでいいのならこれ受け入れられるよね。」という話を今されておりましたがいかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。一つ引退という概念がもうなくなってくるのではないかなと思っております。今まで中学校で3年生になると引退というのがありましたが、それは先程お話しされたように高校生になってもそのまま地域の団体に所属していくということになれば、引退というものはありませんので、生涯スポーツになっていくというような形で考えております。高校には部活が残っていますが、やはりその競技については選択肢がある程度限られていますので、それ以外の競技については地域で子どもたちを取り込んでいる状況が既にありますので、どんどん引退というのは無くなり、地域でしっかり繋がっていくという形になっていくのではと考えております。

委員

ぜひその点を地域のスポーツクラブなどに説明をされる時には、それを言われたらやはり地域の方も、それじゃあ頑張ろうという気になると思いますので、ぜひアピールをしていただきたいと思います。

委員

先程申したように理解はしているのですが、絶対賛成をしているかというところはまた別の話で、強いてデメリットというか弊害で考えると、やっぱり部活動って3年間の成長というか、1年、2年、3年とまあ同じような、先程片やでこの地域移行をすればこれをやってみたり、あれをやってみたりということが出来るんですが、誰か一人の師に仕えて精神的にも肉体的にも、もちろん技術も鍛えていただく、これははずれを引いた時には地獄なんですけど、そういう3年間の成長っていうところで言うと、民間にもいい指導者がたくさんいますし、いい環境っていうのはもちろんあるんだろうと思うんですけど、数が多すぎて、良いものもあれば、悪いものももしかしたらあるかもしれない。その最低限の担保というのが、今までは教員の皆さんにお願いしていたのでそういう安心感っていうのはあったかもしれない。それが自己責任、自分たちが選んだクラブの指導者がいいか悪いかっていうのは、当たりもあればハズレもあるっていうところが、生徒側というか家庭側としてのリスクとして思っておかないといけない。もう一つは学校もそう

だし、家庭も特に親もそうですけれども、今までは学校にいる時間が長かった。勉強をした後、放課後は部活をしてという任せっきりになっていたところが、そもそもなんかかもしれないですが、放課後勉強が終わったらそれぞれのいろんなところに散ってしまう。その行先が多岐に渡り過ぎて学校の職員の皆さんが完全に把握できる訳でもないと思うので、どこに行っているかもよく分からない状態で、尾行したら管轄から離れてってしまう。要は何が言いたいかというところ例えば非行だとか、少年犯罪とかっていう観点でいうと、変化点というのが絶対ある訳で、最近、部活に来なくなったとか、そういうシグナルが学校生活だけでなく、放課後とかの何かの時とかに先生たちは敏感に察知をされて、親と連携して事に対処してもらったりっていうのがあるんだけれども、外に出てしまうと僕たちもこの人が何をしてそこにいるかも分からなくなる。地域の人からしたら、あれこの時間は部活しているはずなのに、早い時間に見かける、昼過ぎにはウロウロしているとかっていう、地域もその変化点に気付きにくい。その変化点に気付くっていうのが早く手を打つという面でも物事には重要なところであって、まあよく分からないところが出てしまうというのは家庭の親も気をつけとかないといけないし、地域であるとか学校もというところがあるのかなと思うので、強いて言うとその2つくらいしか逆に言うとデメリットがないかなと思うのでそれさえ克服ができればとてもいいことになるのかなと思っています。

事務局

一つ変化に気づくというところがすごく大きいところだと思っています。ただ一方でやはり今の学校の部活動でいくと、保護者と学校の教員でしか子どもたちを見ることができなかったというそういう逆のデメリットがあるのではないかと。そこに新たに地域の方が、要は違う方が新たに子どもと接することによって変化点に気づく方がより子どもたちに接する方が多くなることで、変化点に気付く可能性も増えてくるという見方もあるのかなと思っています。それからやはり地域の団体と学校との連携というところが鍵になってくるのかなと思っています。先程ちょっとお話しましたタブレット上で成績等や大会の様子については、学校と団体が連携していく。そこで、つい最近では活動の様子が登録はされているけど団体の方に顔を出していないとか、そういうことも学校の方に連携を取れるようなシステムの構築を進めておりますので、その辺りです。学校との連携が図れていくのではないかなと思っています。現在、社会体育に所属している子どもたちについても学校では教育相談等とか、生活ノートと普段の日記等で活動の様子を話したり、社会体育であっても「活動はどんな?悩んでいることはない?」とかっていうところで相談に乗ったりとか保護者と連携しておりますので、そういった形が今からも続いていくということかなと思っています。ただそういった学校外での子どもたちの様子については、今からどのように変わっていくのかというのは、私たちが想定している以外のことも当然起こり得ると思いますので、その辺りは今からより学校とも詰めながら、対応についても検討していかないとはいけないかなと思っていますので、ぜひ、今のようにご意見をたくさんいただきながら、また検討を進めていきたいと思っています。

委員

施設なんですけど、所によったら争奪戦みたいな形が起こってくるのではないかなと。鹿野なんかは施設はそれなりに多くて子どもが少ないから、この辺は大丈夫と思うんですけど、こちらの方が上に上がってくるのが当然ながら考えられるんですけど、その辺はどうですか。

事務局

今、部会の中でそれぞれの施設の稼働率等を調べて共有しているところです。先日、鹿野で説明をさせていただいたんですが、鹿野の地域の方はたくさん施設がありますので、ぜひそこにいろんな団体に来れるように宣伝をしていこうということでは言われておりました。鹿野とか熊毛については、施設がありますの

で、いろんな団体さんからやはり中心部は競合してしまいますので、より定期利用したいというところで、そういう熊毛とか鹿野で活動を考えられている団体さんもおられるという状況です。その辺りの情報を一元的に情報発信して、団体が散らばるといふか、そこを選んでいただけるように情報発信していきたいなと思っています。

委員

移動が結構大変になるんですね。また逆に移動が負担になるようなことにはなりませんか。

事務局

団体さんの指導者の方の移動の負担は増えるかなとは思っております。例えば今現状でいくと、山口市の団体が中須でアイスホッケーの活動をされたりしておられたりしますので、そのようにいろんな団体が場所を探しておりますので、そこにアイスホッケーであればそれをやりたい子が集まりますし、鹿野の方であれば団体が来るのであれば、自分たちは来る団体から選んで行こうかとちょっと言われていましたが、そういう風ないろんな考え方ができるのかなと思いますので、移動については、その団体の特有の競技であれば移動負担が出てくるかと思いますが、このような施設が上手に利用できればいいかなと思っております。

委員

先程の話に少し戻るようになるんですけど、今まで中学校は特にそうですけど、学校がすべてを抱え込み過ぎてることがあって、朝から晩まで、朝練もやりましたし、土日も練習してましたし、地域から子どもたちを引き上げていくような中学校だったんです。それをよかれと思ってやっていたんですけど。今回これが部活動の地域移行によって必ず子どもたちが帰ってきます。帰ってくることを地域のチャンスだと思ってもらいたいと思うし、保護者と教員だけでなく地域の目で子どもたちを育てようというチーム力もあるといいと思うし、本来のその地域の子どもを地域で育てるっていうこのバランスに、いいところに持っていかたいな。特に周南市は「こどもまんなか宣言」をしてもらってますし、この地域移行も先立ってやろうとしていますし、その結果そういうことになったらいいなと思います。これがひとつのきっかけとなって本来あるべき我々の顔として、仕事の顔とか、委員だったら親父の顔とか言いますが、地域の顔とかって地域の子どもを育てる役割とかって割と薄いんじゃないかと思うんですよ。特に子どもが減っているから。地域の子どもを地域で育てる、自分もそうですけど、自分の地域の子どもをどう見ているのかっていうところもありますけど、そういったところの視点をみなさんここで広く広げてもらえたらいいなあって思います。以上です。

委員

私、大きな組織とかシステムとかいろいろ少しずつ見えてきたんですけど、地域でそれぞれ地域性というものもあると思いますし、そういうところで調整していく。あっちでこっちでってなんか、もちろんここでちゃんと話し合ったシステムを作っても、ふたを開けるとやっぱりいろんな地域性が出たりして、そういう時の調整をする、その意見を吸い上げる、それとか保護者の意見、そして当事者の意見、それを吸い上げて調整していけるそういうシステムっていうのはちゃんと構築できるのでしょうか。

事務局

一つは、団体からのご意見等はセンターの方が吸い上げていくようになります。それから保護者については同じくセンターもありますし、学校の方もあります。やはり団体さんが活動を進めていくんですが、年

間を通して最後どうなったかっていうのを、やはり子どもと保護者にアンケートをとってそれを団体にフィードバックしていく、そういう形も必要なんじゃないかということで協議しておりますので、そういったところで、センターとか学校が、また教育委員会が一つになって、そういうことを吸い上げしながらフィードバックしてよりよい運営につなげていただくというところは、今一つ考えてあります。

委員

先ほど送り迎えの件のお話が出たと思うんですけど、一番保護者の方が心配されている声を多く耳に聞くんですが、どういうところだったら、もし自分が介護とか看護とかのお仕事で夜勤があったりとか、子どもに我慢してもらったりとか。本当は子どもがしたいんだけど、ちょっと連れて行けないために我慢するとか。あるいはシングルマザーとかシングルファーザーとかで、一人でやってらっしゃる方とかは、なかなかそういうのが難しかったり、ちょっといろんな家族によったらそういう制約がある家族がいらっしゃると思いますので、みなさんが平等にいろんなことができるべくできるように家庭の支援って言うんですか、周南市全体をあげて地域全体で家族の支援ができるような、そういうところもちょっと今回のこのシステムに、よりよく移行していくための一番の土台ではないかなと思うんですよ。家族が壊れてしまっちは元も子もないので、そういうところも少しフォローしていただけたらなと思います。

事務局

今の移動費のことについては、現在の学校の部活動の中でも課題の一つだと考えています。例えば鹿野の子どもたちは今、バレーボールと卓球しかないのですが、サッカーがやりたい子は移動ができなければ学校の部活動を選ぶしかないというような状態で、現状でもご家庭によっては、やりたい競技ができていない状況です。ですのでこれは新たな課題ではなくて現状でもご家庭によってはやりたいことができていない。それを学校の部活動で我慢しなさいという状況になっているのではないかなと思っています。ですのでこれを機に、やはり経済的困窮家庭の支援を中心にその辺りは支援ができる体制について今検討しているところあります。

委員

先ほど少し有償ボランティアの話がありましたが、やっぱりあの有償ボランティアのちゃんとした方向性とかということも、きちんと決めておかないと地域性とか家庭の教育力とか考え方とかそういうことで、ぐしゃぐしゃにならないかなと思って。地域でも有償ボランティアでやって、ちょっといろいろいさかいが起きたりしたのを聞いたことがあるので、そういうところは全体的にどうされるのかなと思って。

事務局

クラブアシスタントのことですか。

委員

ここに「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」のイメージ図とか書いてあって、「ボランティアで参加してもらおう」とか書いてあるんですけど、その全体的な有償ボランティアというものを組織でどう捉えるかっていうのが知りたい。

事務局

全体のボランティアの話ですかね。

委員

ボランティアって今まで私もずっとPTAとかいろいろ民生委員とか関わってきましたけど、本当にこちらはそのいろいろな喜びもいただいて、いろいろなものも頂いていいんですけど、ボランティアっていうことをどういうふうに捉えられるのかなって思って。私の数少ない若い方との接触で、「こんなことしておられんよね。無償でどうのこうの」とか、「ボランティアだったら責任はどう取るの」とかという話も時々聞くんで、どういうふうにはボランティアを捉えられるのかなあって思って。

事務局

ボランティアもいろいろな形があるとは思いますが、例えばこの「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」に関するアシスタントについてはボランティアというよりは有償の形で今検討しているところです。その他の例えば「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」以外ですね。先程も出てきました地域クラブとして登録していただくクラブアシスタントのボランティア等については、もうこれは普通の団体と同じような扱いとなりますので、例えば、ここの団体については指導者、運営者については報酬をいただきますよ。報酬はいくらですよというのであれば、それを子どもたちが選んで入っていく。そこは高額である場合もありますし、低廉のものもある。ですので、例えばボランティアを募集します。団体がボランティアを提案しますが、少し有償でお金をいただきますよ。それでもボランティアに来てくださいね。子どもたちがそれを選んで行くようであれば、そういうこともあろうかと思えますし、もう完全な無償のボランティアですよっていうのを提示していただいて、子どもたちが選ぶパターンもあろうかと思えます。ですので、「(仮称)しゅうなんコミュニティ・クラブ」のクラブアシスタントと通常のボランティアとは少し分けて考えております。クラブアシスタントについては、大きな仕事になりますので、有償という形で検討しております。

会長

恐らく、クラブアシスタントに関してはしっかりと仕事がフィックス（固定）されてるので有償けれども、地域サポーターみたいな形は、わあーっと来る人達は無償でやる。結構いるんだと思うんですね。それも含めてボランティア全体について考え方をたぶんお聞きしたいというお話だったんだろうと思うんですけど、それでいいですかね。

委員

はい、それでいいです。

会長

そろそろ時間なので、いかがですか。

委員

私が、前回と今回、地域移行というか学校の部活動について今から変わっていくという話を聞いたところで、なんか当事者の中学生の声が全然聞けてないなとすごく今感じています。大人の皆さんっていうか、これだけ一生懸命どうなんだろうっていうので議論して理解しようとしているところに、中学生の生の声っていうのが全然入っていないのがとっても寂しいなど。今、子どもの意見を聞くっていうのを言ってますよね。今日もちょっと午前中県の方と話していた時に、やはりそういう声っていうのも、この前の話の時に幼稚園の幼児でも子どもの意見を聞きましょうという話があったんです。幼稚園、保育園だったかな、そこでも子どもたちの意見を聞いて何がしたいかっていうのをしっかり聞いて、それで先生たち大人たち

が「じゃあそれをやってみよう」で、子どもたちがワクワクしながらこの体験をしていく。という話を聞いたんです。今皆さん熱心に協議されているのに子どもの中学生の意見ってどうなんだろう。あまり変わりはないかもしれない。どうなのか不安な声も出るかもしれない。でも生の声っていうのが、どこまで反映されているのかな。アンケートは取りました。アンケートではなくって、生の声がちょっと反映されたものが欲しいなっていうのが私の感想です。

事務局

今のご意見につきましては、本当に貴重なご意見だと思いますし、保護者の方からも中学生の意見をぜひというところはお出ております。ただ難しいところで、なかなか今の中学生自身が当事者意識が持ててないというところも。今の小学校4年、5年、6年生は正に当事者意識が高く、休日の体験実証事業を先程お話ししましたが、小学生は参加があるのですが、中学生はほぼ参加が無い。自分達は部活がありますので。次の新1年生、中学校1年生はまさにこの移行期に関わっているところですので、その1年生を中心にアンケートを取るのを含めて、意見を聞きながらまた反映させていきたいなと思います。ありがとうございます。

会長

それでは、この案件につきましては、これで終了したいと思います。いろんなご回答を反映していただけたらと思います。それでは会議の進行を事務局にお返ししたいと思います。

事務局

渡部会長、ありがとうございました。

委員の皆様からたくさんの貴重なご意見をいただきました。今回の会議でいただきましたご意見につきましては中学校の部活動の地域移行の専門部会や協議会へ情報共有させていただきたいと存じます。それでは、事務局から事務連絡をさせていただきます。

事務局

～事務連絡の概要～

- ・社協情報、県の社連会報の提供

(閉会)